

夏期日本語教育報告

総 括

夏期日本語教育主任
桜木 ともみ

はじめに

2019年度の夏期日本語教育（以下 SCJ）は、17の国／地域からの73名の受講者を迎えた。今年も SCJ を開催することができたのは学内外の関係者の方々のご理解とご支援の賜物である。ここに深く感謝の意を表す。

また、今年度は SCJ 運営の重要な課題に直面した年でもあった。以下、2019年の SCJ の概要に加え、今後の課題、特に SCJ 開催期間中の学内施設工事への対策、猛暑・台風・地震等の災害対策、そして受講生の心身の健康のサポート体制の強化について、大学全体で検討すべき喫緊の課題であることを述べたい。

1. スケジュール

SCJ が大学のコースとして単位化されて以降、学習内容は通常学期と同質を保ちつつ、夏の短期集中コースでも無理のないスケジュールとする必要がある。そのため、例年どおりの開催期間（6週間）を維持し、入寮、登録、オリエンテーション、歓迎会、プレースメントテストを経て、翌週月曜日から実質5週間を授業日として確保した。また、文化プログラムのイベント等は中間テストの時期などに留意しながら計画した。

なお、昨年度は祝日（海の日）を休みとしたが、総合授業時間の不足やコース運営上問題があったため、今年は授業開校日とした。祝日に授業を開講すると他の学内施設は閉室となるため不都合な点もあるが、今年に関しては大きな問題にはならなかったようだ。

もう一つの変更点は、期末試験日を最終日の前日に設定したことである。過去数年、SCJ 期間中に台風の影響を受けたことが何度もあった。特に昨年度はコース終了間際に大型台風が関東に直撃し、期末試験日に混乱が生じた。そのため今年は最後の二日間を調整日として対応できるよう期末試験を先に設定し、仮に台風が来て試験が最終日に変更になってもプロジェクト課題はオンラインで提出するといった調整ができるようにした。ただし、近年 SCJ でも特別学修支援が必要な学生が増え、試験のための準備・人員配置が煩雑になっており、より様々な状況を想定したスケジュールの検討が求められる。

2. 日本語クラスと担当講師

昨年度と同様に初級～上級クラス（C1～C7）と、継承語としての日本語クラス（C-Sp: Special Japanese）の8レベルを開講した。コース内容やプレースメントテストなど、詳しくは教務報告を参照いただきたい。

SCJ の日本語クラスの特徴の一つは、ICU の通常学期（JLP）と同様の内容を短期集中で学べる点である。2015年から SCJ の C1～C7レベルの単位が本学本科生の卒業要件である JLP 単位を満たすようになった。また、2016年度からは短期留学生の単

位互換も認められるようになり、本学本科生や短期留学生にとって SCJ の単位は卒業要件や GPA に関わる重要なものだと言える。もちろん、単位としての重要性だけでなく、受講生が次のレベルのコースに無理なく進めるよう、基礎力と応用力を確実に育成することが求められる。そのため、各レベルの担当講師は SCJ 開始前からチームティーチングで準備を進め、開始後は授業や個別指導で受講生と向き合いながら細やかに指導いただいた。それぞれのレベルでビジターセッションやコース間での合同アクティビティーなど創意工夫を凝らし、忙しくも楽しい授業を展開してくださったおかげで、受講生から高い評価を得ることができた。

3. 文化プログラム

今年度も、マーク・ウィリアムズ学術交流副学長の統括のもと、保坂明香文化プログラム担当が学生アルバイトの助手 3 名と協力してプログラムを運営した。詳細は「文化プログラム報告」を参照されたいが、昨年の経験を活かし運営方法を見直して準備を進めたこともあり、全体的に大変好評であった。来年度はオリンピック開催と重なることから更に工夫が必要となるが、引き続き学内外の協力を得ながら良いイベントや教育プログラムを検討していきたい。

4. 受講生

応募者 95 名のうち、不合格・辞退者などを除く 73 名が受講した。2 名が自己都合により中途退学となった。受講生の内訳は、本学在校生が 5 名、秋入学予定者が 2 名、ICU の教育交流プログラムで参加した学生が 37 名（うち 8 名が SCJ の後も継続して ICU に在籍）、一般応募の学生・社会人が 29 名の計 73 名であった。受講生の出身は 17 か国／地域に及んだ。今年もアメリカと中国が多かったが、他にもブラジル、ポルトガル、スペインなど多くの国からの参加者を得た。

受講生のうち、授業内で特別学修支援を必要とする受講生が複数いた。また短期集中型の SCJ が後半に入る頃に授業や生活のサポートが必要になった受講生が複数名いた。受講生全員の安全を確保し、よりよい SCJ 運営を行うためには、受講生からの申告や母校でのサポートの情報を専門家が適切に判断し対応できるような体制を整える必要がある。

5. 保健室と看護師

昨年度と同様に SCJ 期間中、臨時雇用看護師が常駐する保健室を本館教室の並びに設置した。前半は特に問題がなかったが後半に入り使用者が急増した。疲れがたまる時期と、授業の負担が大きくなる時期が重なるためとも考えられるが、昨年度に比べ 3 倍近くの利用者があったことから、問題はそれだけではないように思われる。要因の一つに持病に対する備え不足が考えられる。SCJ からの事前連絡として、本国で担当医に相談し、服用している薬を滞在期間分持参するよう指示したが、持病に対する十分な対策ができていないケースが見られた。体調が悪化してからでは対応に苦慮した。今回、看護師による適切で親身な対応に多くの学生や教員が助けられたものの、1 名では対応

しきれない場面があったことは否めない。持病や病歴のある受講生には特に事前準備の確認や、来日後の早い段階からの声掛けが効果的だと考えられる。継続して ICU に残る学生のためにも SCJ 期間だけでなく開始前・終了後のサポートについても学内の関連部署と具体的に検討を進めたい。

6. 学内施設

来年度以降にも課題になる点の一つとして、SCJ で利用する施設と、老朽化が進む本学施設の工事との調整は重要な検討事項であろう。SCJ では、本館 2 階部分、マルチメディア教室 (ILC)、第二教育研究棟 (ERB-II)、学生宿舎、講師宿舎、歓送迎会会場等の利用施設の準備を前年度秋から開始するが、今年度は春に ILC の外壁工事、SCJ 開始直前に ERB-II のエレベーター工事が SCJ 期間中に重なってしまうことが分かり、関係部署と調整を進めた。具体的には、以下の 3 つの措置を取った。(1) プレースメントテストや試験期間中は工事を中断し騒音の問題を回避した。(2) ICU のマルチメディア教室が使えないので、各クラスに貸し出せるようノートパソコンを手配し、保管場所を設置した。(3) 講師や教務スタッフが使用する ERB-II のエレベーター工場の騒音対策として、別棟に作業場所を確保した。

関係部署の協力で何とか無事に SCJ を実施できたが、来年度以降も工事は予定されているため、早い段階から学内で検討・準備を進める必要がある。

7. 緊急時対策

昨年度の SCJ では二度にわたる台風上陸を経験し、学生への事前メールによる注意喚起、緊急時の安否確認などの対策を立てるとともに、学内の連絡体制を整備した。今年度は SCJ 開始前に改めて緊急・災害時対策について学内の関連部署との確認を行い、学生への連絡や緊急時の安否確認がスムーズに行えるよう準備を整えた。今年度は台風等の被害もなく、安否確認メールを利用せず済んだのは幸いであった。また緊急時の対応について準備したことで、2 週目が終わったタイミングで後半に向けた注意喚起のメールを送ることができた。また、SCJ 期間中に緊急に関連部署との連絡・相談が必要になった際にスムーズに協力を得ることができ、非常に助かった。サポートして下さった方々にあらためて感謝申し上げると共に、今後もより密な情報共有と連携をお願いしたい。

日本では地震や台風等の災害への備えは不可欠であり、更に 2020 年は東京オリンピック開催と重なるため、夜間や週末にトラブルなど、これまで以上に綿密に緊急時の対策を講じなければならないと思う。

8. その他

SCJ 開始時に米国ジョージ・ワシントン大学より訪問を受け、今年度より受け入れている同校主催の日本語スピーチコンテスト「J.LIVE (Japanese Learning Inspired Vision and Engagement) Talk」の受賞者の授業受講の視察、今後の広報について学内関連部署との打ち合わせを進めた。

終わりに

以上、概観ではあるが2019年度のSCJの総括と、今後に向けた課題を述べた。繰り返しになるが、このプログラムを無事に終了できたのは、SCJ期間中だけでなく年間を通して多くの方のサポートとご尽力があったからに他ならない。プログラムに関わってくださった全ての方々と、SCJを選択してくれた受講生に心よりお礼を申し上げる。

教務報告

教務主任
武田 知子

2019年度の夏期日本語教育は、73名の受講生・8レベルのコースを20名の講師、関連部署のスタッフ、教務助手、ボランティアの学生など多くの方々に支えられ無事に終了することができた。以下、今年度の教務関連事項について報告する。

1. スケジュール

スケジュールは表1の通りである。

表1 教務関連のスケジュール

日時	内容
7月3日(水) 13:00-	全体講師会、プレースメントテスト実施要領説明
7月4日(木) 午前 13:00-15:00	受講生登録、オリエンテーション 歓迎会
7月5日(金) 午前 午後	プレースメントテスト実施、入門クラス(C1)授業 プレースメントテスト採点及び判定会議 受講生キャンパスツアー、図書館ツアー
7月8日(月) 8:30 8:50- 午後	レベル判定結果発表 授業開始 受講生のコース移動等に対処
7月9日(火) 8:30-	教室にて教科書配布
7月10日(水) 13:50-15:00	全体講師会
7月17日(水) 13:00-15:00	講師懇親会
8月8日(木) 8:50-12:40	期末試験
8月9日(金) 8:50-12:40 13:00-15:00	授業最終日 歓送会
8月10日(土) 11:00- 15:00 まで	コース報告会 成績・コース報告書等提出

2. コース概要

2.1 授業時間

授業は月曜日から金曜日まで、通常学期と同様に表2の時間帯で行った。

午後の個別指導については水曜日以外の4日間で行い、水曜日午後は全体講師会の時間とした。

表2 授業時間

1限	8:50-10:00
2限	10:10-11:20
3限	11:30-12:40
《昼休み》	
個別指導	13:50-15:00 (水曜日以外)

2.2 各コースのレベルと使用教材

今年度も入門レベルから上級、継承語としての日本語のレベルまで、計8コースを開講した。各コースのレベルと使用教材は以下のとおりである。

表3 各コースのレベルと使用教材

コース	レベル (CEFR)	教材
C1	初級 (A1)	『ICU の日本語 1』 Getting Started, L1-9 漢字練習帳 (L1-L9) 文法練習帳 (Getting Started, L1-L9)
C2	初級 (A2)	『ICU の日本語 1』 L10 『ICU の日本語 2』 L11-L19 漢字練習帳 (L10-L19) 文法練習帳 (L10-L19)
C3	初級 (A2)	『ICU の日本語 2』 L20 『ICU の日本語 3』 L21-L29 漢字練習帳 (L20-L30) 文法練習帳 (L20-L29)
C4	中級 (B1)	『ICU 中級日本語 1』 本冊、別冊、練習帳
C5	中級 (B1)	『ICU 中級日本語 2』 本冊、別冊、練習帳
C6	中級 (B1/B2)	『ICU 中級日本語 3』 本冊、別冊、練習帳
C7	上級 (B2)	学生に合わせて適宜生教材等を使用
C-Special	日本語特別教育 (継承語としての日本語)	学生に合わせて適宜生教材等を使用

2.3 コース担当講師

表 4 コース担当講師

コース	コーディネーター	ティーチングスタッフ
C1	郡司 拓也	尾花 美夏
C2	貴志 佳子	三木 貴司、清水有紀、 小柳津 成訓*
C3	吉田 睦**	赤間 久美子、上岡 佐知子 ヒルマン小林 恭子
C4	西野 藍**	仲野 麻未
C5	中尾 眞木子	中 智恵子
C6	宇賀持 綾子	三谷 小雪
C7	本間 邦彦	マクファーソン田中 苗美
C-Special	加藤 久子	三木 杏子*

計 20 名

*のマークは ICU 日本語教育課程の非常勤講師、**は ICU 日本語教育課程の専任講師を示す。

3. 受講生のプレースメント

昨年同様、受講生が出願する時期とサマーコース開始時の約 4 ヶ月～6 ヶ月の隔たりを考慮し、レベル分けのためのプレースメントテストを実施した。出願時に受講生が提出した日本語学習歴等の書類は、レベル分け及びその後の指導の参考資料として活用した。

2019 年度の受講生 73 名の内訳は、ICU 本科生で春学期に JLP のコースを履修した 5 名、ICU 入学や交換留学等で SCJ の後も継続して ICU に在籍予定の 10 名、SCJ のみの受講生 58 名であった。春学期から継続する ICU 本科生以外で、日本語学習歴がある受講生はプレースメントテストを受け、日本語学習歴がない場合はひらがなや挨拶表現などを学ぶ入門クラスに参加した。

プレースメントテストのレベル判定については、各コースのコーディネーターを中心に複数名で総合的に検討し決定した。学生はプレースされたコースで初日の授業を受けるが、そこでのパフォーマンスなどの様子から担当講師がコースを移動した方が適していると判断された学生についてはコース間で相談し移動した。最終的に各コースは以下のような人数となった (表 5)。

表5 各コースの受講生数

コース	判定結果	最終受講生数
C1	8	9
C2	13	13
C3	17	16
C4	8	10
C5	11	8
C6	9	9*
C7	4	5
C8 (C-Sp)	3	3
		計 73 名

*C6 受講生のうち 1 名は自己都合で中途退学をした。

各コースの受講生数を考慮し、C3 は全日程を 2 セクションで、C2 は部分的に 2 セクションで授業を実施した。

4. 教務・学習・学生への支援体制

4.1 教務・学習支援

SCJ の教務関連の運営は、グローバル言語教育研究センター (RCGLE) 事務室、教務助手、授業ヘルパー、総合学習センター (ILC) 所轄のヘルプデスク・サポートデスク等による支援体制のもと実施された。

授業は基本的に本館 2 階の教室で実施した。これまで、授業内容に応じて使用していた ILC のコンピュータ教室が工事のため使用できなかったため、受講生用ノートパソコンを 50 台レンタルして対応した。レンタルしたパソコンの保管場所として本館 2 階の 1 室を確保し、施錠可能なロッカーを設置した。パソコン保管の教室は、授業時間には教員控え室としても活用した。また、図書館のマルチメディアルームも ILC 教室の代わりに使用できるようにした。

講師室は、第二教育研究棟 (ERB2) の 3 室 (ERB2-106, 121, 130) に設置し、コース・レベルごとに講師の机を配置した。事務室 (ERB2-104)、教務室 (ERB2-105)、ICU 専任講師の研究室も近く、連絡や相談、教材作成等がスムーズにできた。

教務室の開室時間は、授業開始前の 8 時から 16 時までとし、教務助手 (学生アルバイト 2 名)・授業ヘルパー (シフト制で 7 名が交替で勤務) のうち 1・2 名が常駐し、教務関連の業務補佐を担当した。具体的には、貸し出し業務 (本館教室用キースイッチ、教員用ノートパソコン、視聴覚機器、ILC 教室の鍵、事務用品など)、教材の印刷、ビクターセッション等の会話ボランティアの手配、教員への諸連絡・対応等であった。昨年度も授業ヘルパーを担当した経験者がいたため、業務内容の引き継ぎや作業内容の確認・改善を円滑に進めることができた。

2019 年度に行った新たな試みとして、ボランティア説明会の開催とボランティア運用のためのグーグルクラスルームの活用がある。5 月に 2 回、ICU 在校生に向け SCJ ボランティアの説明会を、センター長、文化プログラム担当、SCJ 主任、教務主任とボランティア経験者により行った。2 回の説明会には約 50 名の学生が参加し、その結果 62 名の学生がボランティア登録をした。ボランティア希望の 62 名の学生をグーグルクラスルームに登録し、文化プログラムや授業ビジターのイベントごとに助手が募集をかけ、参加を促した。クラスルームで呼びかけ、グーグルフォームで申込み手続きを行ったことで、手続き及び参加者管理が簡便になった。グーグルクラスルームの活用により、全体的にボランティア参加学生が増加し、文化プログラム、授業のビジターセッションが活性化できた。ただし、一斉休暇後やお盆休みの時期には参加ボランティアが少なくなるという問題は継続して残り、今後の課題となった。

4.2 学生支援

SCJ 期間中、図書館、特別学習支援室、カウンセリングセンター、ヘルスケアオフィス、及び夏期日本語教育に常駐する看護師によって学生支援が行われた。

近年、特別な配慮が必要な受講生が増えてきているが、2019 年度も提出書類の服薬歴から何らかの支援が必要だと推測される受講生や、特別支援を申請する受講生が多かった。そうした受講生への対応を検討するため、SCJ 開始前に特別学習支援室及びカウンセリングセンターと打ち合わせの時間を設けた。打ち合わせでの内容を受け、服薬をしている受講生に対しては、日本では同様の薬を入手することが困難なため十分に準備をして持ってくることや、日本で禁止されている薬を持ってくるための書類の準備等について知らせるメールを送った。また、プレースメントテスト、中間テスト、期末試験の際の準備や別教室での監督要員など予測し、人員の手配を行なった。さらに、具体的にどのような支援が必要なのかを探るため、オリエンテーション日に特別支援室の協力を得て特別支援を申請していた受講生を対象に面談を行った。

十分に準備を重ねてはいたが、SCJ 開講後に、必要な薬を持ってきていない、服薬をしてこなかった学生等がいて、その対応に追われた。また、寮内での飲酒による問題も起こった。さらに、症状が悪化し、授業に来られなくなる受講生や、通常の受講の継続ができなくなり別日に期末試験を受け単位を得て終了する受講生が出る事態となった。今後こうした事態が起こった際に、どのように対応するべきか、大学全体で検討が必要である。

5. 総括

以上、2019 年度夏期日本語教育の教務関連事項について報告した。猛暑の影響で体調を崩す受講生、持病が悪化した受講生が多く、その対応に追われた 6 週間であった。何とか終了することができたのは、プログラム中で支援くださった多くの方々のお陰である。ICU 特別学修支援室の杉田瑞枝さん、カウンセリングセンターの寺島吉彦先生、渡辺暁里先生、会話ラウンジに御参加くださった本学職員の方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

文化プログラム報告

文化プログラム担当
保坂 明香

2019年度の夏期日本語教育においても、例年同様に様々な文化プログラムが実施された。台風や猛暑による影響が懸念されたが、学内外の温かい支援を受け、全てのイベントが無事に終了した。多くのサマーコース受講生が様々なイベントに参加し、日本語学習の機会と共に、日本文化に対する理解を深める機会も得られたことと思う。以下に、2019年度の文化プログラムの実施内容と課題を報告する。

1. 文化プログラムラウンジ、業務

1.1 報告

文化プログラムラウンジは本館（本学施設）2階教室に設置され、期間中、午前8時半から午後3時まで開室された。ラウンジではイベントの参加受付、支払い、ボランティアへの連絡、イベント実施のための作業等が行われ、文化助手3名が交替でラウンジに常駐しこれらの業務に携わった。文化助手は主たる業務以外にも、受講生との会話や学内外の案内を積極的に行い、受講生の学びが豊かなものになるよう努めていた。

1.2 課題

受講生との交流が深まるように、文化助手は自身を紹介するポスターで自分の興味・関心を伝え、ラウンジでは受講生に積極的に話しかけていた。また、日替わりのポスターを作成し、その中で受講生の日本語学習を労ったり、日本文化や雑学的な知識を紹介したりしていた。コース開始当初はラウンジを訪れる学生があまりいなかったが、コース後半になり学生達が頻繁にラウンジを訪れるようになったことは、文化助手の取り組みの成果であったと思われる。文化ラウンジは、授業で学んだことを試し、生かす場であり、また受講生にとって過密スケジュールのコースの息抜きの間としても役割を果たしていたように見受けられた。一方で、受講生の全体数を考えると、利用した学生が限られていたことは課題として残る。今年度の課題と成果を見直し、ラウンジが今後盛んな交流の場となるために、より一層の環境づくりが求められる。

2. 文化プログラムイベント

2.1 報告

以下、本年度実施したプログラムの一覧である。

実施プログラムと参加人数

日程	イベント	講師	定員	希望者数	参加者数
7月9日(火)	ソーラン節体験	ICU 学部生 屋敷南さん	30名	23名	19名
7月12日(金)	坐禅体験	観音院 来馬正行住職	35名	31名	31名
7月16日(火)	映画上映・講義・ディスカッション	ICU 学術交流副学長 マーク・ウィリアムズ教授	定員 設けず	19名	17名
7月17日(水)	琴体験	ICU 箏曲部	20名	26名	20名
7月19日(金)	歌舞伎鑑賞		20名	25名 ⁽¹⁾	25名
7月24日(水)	日本舞踊体験	ICU 日本舞踊研究会顧問 水木和歌先生ほか ICU 日本舞踊研究会	40名	17名	13名
7月26日(金)	茶道体験	ICU 茶道部顧問 網谷宗実先生 ICU 茶道部	24名	30名	23名
7月30日(火)	日本料理体験		40名	37名	34名
8月1日(木) 8月2日(金)	ジブリ美術館 訪問		54名	51名	47名

特記事項

本年度の SCJ 受講者数（73 名）を考慮すると、全体的に多くの学生が文化プログラムのイベントに参加したと言える。受講生の日本文化に対する強い関心が窺えるが、文化助手がイベントを宣伝するために行った数々な工夫も参加人数が伸びた要因であると考えられる。助手はポスター作成に工夫を凝らし、看板の設置場所や設置のタイミングを考え宣伝活動を行っていた。

本年は学内イベントの充実を図るべく、ソーラン節体験や琴体験、日本料理体験を取り入れた。これらの活動を通し、受講生はサマーコースの教員や ICU の学生と交流する機会が得られ、活動によって日本語の学びも深めていたように思う。

例年、イベント参加費は大学発行の証紙で支払われていたが、受講生にこの方法が理解されづらく購入に手間取り、結果的に支払いが滞ることがあった。本年はいずれのイベントの参加費も現金で払う形式に変更したが、簡便かつスムーズに支払いを済ませることができた。受領した金銭の管理を十分に行う必要があるが、今後もこの方法を継続してよいと思う。

2.2 課題

イベントの申し込みをした受講生が、参加を取り止めるということがしばしばあった（参加人数の詳細は上記の一覧を参照されたい）。コース開始時に配布するパンフレットには例年以上に支払いや参加方法のポリシーを明確に記し、オリエンテーション時にもこれを伝えたが、受講生に十分に理解されなかった可能性がある。今後の方法と周知の仕方について担当者間で検討したい。

多くのイベントがボランティアの参加に支えられ、円滑に実施することができたが、ボランティア数が不足し、実施が困難なイベントもあった。来年は東京オリンピックが開催されるため、キャンパスにいる学生が少ないことが推測される。イベントを実施するために参加学生の協力は必要不可欠であるため、この点を十分考慮し、実施プログラムと日程の調整を図りたい。

学生への対応

イベント実施中に写真撮影をする場合は、肖像権や個人情報保護を考慮し、開始の前に学生に許可をとって撮影をした。許可を得て撮影した写真は、JLP（本学の日本語教育課程）の Facebook に掲載した。

学外イベントの終了後に受講生が大学までの引率を希望する場合は、プログラムのコーディネーターか文化助手がキャンパスまで引率、または大学最寄駅からのバスの乗車を確認し、学生の安全の徹底に努めた。

3. 会話ラウンジ

毎週水曜日の昼休憩に、新 D 館（本学施設）1 階ラウンジにおいて、学生ボランティアを迎え、会話ラウンジを実施した。昨年度は参加ボランティア数が少なかったため、本年は 5 月に 2 度、ボランティアの内容と活動意義を伝える説明会を実施した。また、教職員に対しても参加協力を呼びかけた。この呼びかけに対し多くの学生・教職員が協力の意思を示し、初回は 36 名、2 回目も 26 名のボランティアが参加し、会話ラウンジは大変盛況であった。

会話ラウンジが意義のある学びの場になるように、文化助手は受講生がその週に学習した文型表現や表現を使った文例のリストを作成し、活動前にボランティアに配布した。このリストによって日本語学習を開始してから間もない学習者も日本語で交流することができ、他レベルにおいても会話が弾む様子が見受けられた。受講生は日本語で話すことに自信を得られ、次回への参加意欲にも繋がっていたようである。

最後に、サマーコース教員の会話ラウンジへの理解と協力についても書き添えたい。教員の中には会話ラウンジの教育的な意義を理解し、担当する学生に参加を強く促し、会場まで誘導して下さる方もいた。ここに深く感謝を申し上げたい。

以上のような教育プログラムと文化プログラムの連携は、今後も積極的に行っていきたいと思う。

4. おわりに

期間中のイベントの宣伝や広報活動は適切かつ十分に行われたと思われるが、参加者数が定員に達しないイベントもあり、イベントに一度も参加しない学生もいた。インターネットや SNS 等で容易に情報収集をすることが可能な昨今、外国の地においてもそれらを駆使すれば様々な体験をすることが可能になっている。文化プログラムに求められるニーズも変容していると考えべきだろう。今後、日本文化に対する理解を深められる、受講者のニーズに添ったプログラムを企画していかなければならない。

今後に向けて検討すべき課題はあるが、受講生は6週間という短い期間の中でも、日本文化について考える機会を得、学びを深めたように思われる。今年度のサマーコースを振り返ると、プログラムの実施にあたり協力してくださった多くの方々イベント講師、サマーコース教員、ICU教職員・学生への支援の大きさ、温かさを感じずにはいられない。ここに心より感謝を申し上げたい。

注

1. 近年、歌舞伎鑑賞の参加希望者が減少傾向にあるため、数を減らしてチケットを購入したが、今年度は参加希望が購入数を超えたため、コース開始後に追加購入した。

事 務 報 告

1. スタッフ

Mark Williams	国際学術交流副学長
岩田 祐子	グローバル言語教育研究センター長
桜木 ともみ	夏期日本語教育主任
武田 知子	夏期日本語教育教務主任
保坂 明香	夏期日本語教育文化プログラム担当
卯野 夏樹	グローバル言語教育研究センター事務室業務担当
林 久美	グローバル言語教育研究センター事務室業務補佐
大坂 貴子	夏期日本語教育看護師
池田 亜紗	グローバル言語教育研究センター助手
張 名瑤	グローバル言語教育研究センター助手
白石 直也	夏期日本語教育教務助手 (学生アルバイト)
和田 千明	夏期日本語教育教務助手 (学生アルバイト)
他、授業ヘルパー (常時 1 名) 7 名が交替で勤務	
木村 佳奈子	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)
寶井 真友	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)
今宮 早稀	夏期日本語教育文化プログラム助手(学生アルバイト)

2. 講師名簿 (所属は 2019 年 4 月 1 日現在)

教務主任	武田 知子	国際基督教大学 日本語教育課程 インストラクター
C1	郡司 拓也	Lingnan University Part-time Lecturer University of Macau Part-time Lecturer
	尾花 美夏	University of Illinois at Chicago Lecturer of Japanese
C2	貴志 佳子	Case Western Reserve University Lecturer in Japanese
	三木 貴司	Cornell University Lecturer
	清水 有紀	University of Iowa Japanese Instructor
	小柳津 成訓	国際基督教大学 非常勤講師 上智大学 Adjunct Lecturer 政策研究大学院大学 Adjunct Lecturer 立教大学 Adjunct Lecturer
C3	吉田 睦	国際基督教大学 日本語教育課程 特任講師
	赤間 久美子	Tulane University Adjunct Assistant Professor New Orleans Weekend Japanese school Instructor
	上岡 佐知子	University of California, San Diego Lecturer
	ヒルマン小林 恭子	メリーランド大学カレッジパーク校大学院 第二言語習得学 博士課程
C4	西野 藍	国際基督教大学 日本語教育課程 インストラクター
	仲野 麻未	Vanderbilt University Lecturer in Japanese
C5	中尾 眞木子	Johns Hopkins University Full-time Lecturer in Japanese
	中 智恵子	Sarah Lawrence College Guest Faculty
C6	宇賀持 綾子	Saint Petersburg University Senior Lecturer サンクトペテルブルク日本人補習校 Teacher Japanese Advanced Class/Russia Founder, Teacher
	三谷 小雪	University of Hawaii at Manoa Graduate Assistant
C7	本間 邦彦	University of Hawaii at Manoa Instructor of Record / PhD Student in Japanese
	マクファーソン 中 韻	Brown University Visiting Lecturer
C-Sp	加藤 久子	関東学院大学 (経済学部、法学部) 非常勤講師
	三木 杏子	国際基督教大学 非常勤講師 筑波大学 非常勤講師 Tsukuba international school Part-time lecturer

3. 2019年 夏期日本語教育 カレンダー

月	火	水	木	金
		7/3 入寮日	7/4 登録 オリエン テーション 歓迎会	7/5 プレースメント テスト キャンパス ツアー
7/8 授業開始	7/9 ソーラン節	7/10 会話ラウンジ セッション	7/11	7/12 坐禅 (観音院)
7/15	7/16 レクチャー 映画『沈黙』	7/17 会話ラウンジ セッション 箏曲部	7/18	7/19 歌舞伎 (国立劇場)
7/22	7/23	7/24 会話ラウンジ セッション 日本舞踊	7/25	7/26 茶道
7/29	7/30 交流行事 (料理)	7/31 会話ラウンジ セッション	8/1 ジブリ美術館 1日目	8/2 ジブリ美術館 2日目
8/5	8/6	8/7 会話ラウンジ セッション	8/8	8/9 授業終了 歓送会
8/10 (土) 退寮				

4. 受講者に関する統計

A. 応募者内訳

応募者	100
辞退者	9
合格者*	91
不合格者	0

* 合格者 91
合格後辞退者 18

受講者	73
-----	----

B. 受講者内訳

① 身分別

	男	女	計
一般受講者	13	20	33
在学生受講者	2	3	5
教育交流プログラム受講者*	15	20	35
合計	30	43	73

* 〈内訳〉

University of California	12	13	25
University at Buffalo	1	1	2
Emory University	0	3	3
Rutgers University	1	0	1
Lingnan University	1	0	1
University of East Anglia	0	1	1
University of British Columbia	0	1	1
University of Massachusetts	0	1	1
合計	15	20	35

② 宿舎別

	男	女	計
自分で用意	5	2	7
その他*	28	38	66

* 〈内訳〉

Zelkova 寮 (Sibley House 1 人)	25	33+1	59
ホームステイ	1	0	1
ソーシャルレジデンス	2	4	6
合計	28	38	66

③ 国 / 地域

Brazil	1	Korea	2	USA	30
China	17	Portugal	1	USA/Canada	1
Germany	1	Russia	1	USA/France	1
Hong Kong	1	Spain	1	USA/Hong Kong	1
Iceland	1	Syria	2	USA/Japan	5
Japan	1	Taiwan	2	USA/ Thai	1
Japan/Korea	1	UK	2		

TOTAL: 73